

具体的な実践交流と研究活動を

第46回全研 inしが

部落解放研究第46回全国集会を11月7日、滋賀県長浜市長浜ドームを主会場に開催され、和歌山から各支部と行政関係を含め74人が参加した。

主催者を代表し、組坂繁之・部落解放第46回全国集会中央実行委員会実行委員長は「福島県民への差別、格差社会のなかでいじめや虐待などさまざまな人権侵害がおこっている。1日も早く「人権侵害救済法」を設定しなければならぬ。



この研究集会を通して差別をなくし、環境・平和を守るため、この3日間しっかりと議論し、地元へも帰ってほしい」とあいさつした。



長から、戦前戦後の解放運動と滋賀県内で発生した主な差別事件が報告された。記念講演は「震災復興と人権」と題し、コーディネーターに寺川政司・近畿大学准教授、パネリストとして湯浅誠・反貧困ネットワーク事務局長、福島県いわき市から現在、大阪市に移住した遠藤雅彦さんから、それぞれの活動と現在の状況が語られた。遠藤さんは「震災によってやむをえず住んでいた土地から避難するということとは突然、無縁社会に転がりこむことになるとりくみ活動している」と話した。

あいさつする組坂繁之・中央執行委員長

2日目は7会場で分科会とフィールドワークがおこなわれた。

最終日は、道中隆・関西国際大学教育学部教授より「生活保護制度の今日的状況と課題」について講演が



第6分科会

人権啓発研究集会成功をめざして

第27回人権啓発研究集会・第13回和歌山・人権啓



あいさつする 田上武・実行委員長

現地実行委員会

発研究集会第3回現地実行委員会が11月20日、鷲の森別院でひらかれ、各構成団体24人が出席した。

はじめに、田上武・現地実行委員会実行委員長は「和歌山県水戸社創立90年をむかえるにあたり、ぜひ和歌山らしい集会にするため、活発な意見を出してほしい」とあいさつした。

会議は藤本哲史・県連書記長の進行で、第2回現地実行委員会以降の経過報告がされた。また、集会の要員任務や要員派遣について協議し、地震及び津波対策(案)について、各会場の避難場所や避難方法を開会前にアナウンスをおこなない、討議資料に避難場所等を掲載する事を確認した。

おこなわれ、生活保護制度のしくみや政策課題、社会保障制度が抱える問題について提起された。



記念講演・寺川政司さん(左)、湯浅誠さん

連載(13)

「吾々は市政といかに闘うか」 —オール・ロマンス差別糾弾要項—

高山市長が東海道沿線の植樹帯と並行して、文都法の一連として計画した事業に、外国人便所の新設があった。工事費はタツタ三ヶ所で四五〇万円ということであった。これは外国観光客のドライブ経路を考え、必要・適当な場所に、すばらしく立派な便所をこしらえようとする計画である。勤労市民の猛烈な反対に逢って「外人便所」を「有料便所」とすることでお茶をにごしたが、高山市政が、いかに外国人に媚を売ること、あの手、この手で苦勞しているか、うかがえる。

高山市長が東海道沿線の植樹帯と並行して、文都法の一連として計画した事業に、外国人便所の新設があった。工事費はタツタ三ヶ所で四五〇万円ということであった。これは外国観光客のドライブ経路を考え、必要・適当な場所に、すばらしく立派な便所をこしらえようとする計画である。勤労市民の猛烈な反対に逢って「外人便所」を「有料便所」とすることでお茶をにごしたが、高山市政が、いかに外国人に媚を売ること、あの手、この手で苦勞しているか、うかがえる。

美しいものとみにくいの、優越するものといやしまれるものとの差が、なんと印象的に浮び上ってくることだろう。保健行政は根本的に、差別行政である。勤労市民の利益を考えないで、外国人の手先となって日本人の生活を根本的にハカイしようとするならば、外国人の差別行政である。こういう仕事のやり方ならなられている一人の環境

また本管がとおっていても、水道がひけない場合がある。本管からひきこんで代用管をこさえてくれれば、共用栓で何十軒もの家庭で水道を利用できるので、それは私道だからというのでほうっておかれる。個人負担で給水管がひけるならば、なにも部落民は苦勞しない。衛生の根本改善を考えるなら、当然私道と

